

令和5年（2023年）度上期（4月～9月）胆振管内訪日外国人宿泊者数（延べ数）の状況について

令和6年（2024年）1月
北海道胆振総合振興局

【概要】

令和5年（2023年）度上期の訪日外国人宿泊者数（延べ数）は356,230人泊で、前年度同期（3,645人泊）と比較して352,585人泊の増加（前年度同期比9,773.1%）となりました。令和5年（2023年）5月には、新型コロナウイルス感染症が5類に移行となり、水際対策が終了したことが増加の要因と考えられますが、コロナ禍以前の令和元年（2019年）度同期（417,770人泊）との比較では61,540人泊の減少（令和元年(2019年)度同期比85.3%）となっています。

【国・地域別の状況】【資料1】

訪日外国人宿泊者数（延べ数）を国・地域別に見ると、台湾が119,546人泊で最も多く全体の33.6%を占めており、次いで韓国（107,969人泊）、香港（30,510人泊）、シンガポール（17,053人泊）、中国（13,482人泊）となっています。

各空港会社の新千歳空港への国際定期便の再開などから、令和元年（2019年）度同期の宿泊者数を上回る国も見受けられますが、中国やマレーシアは、未だ定期便が復活していないことなどが影響し、令和元年（2019年）度同期と比較して大きく減少したままとなっています。特に、中国は、中国政府による団体旅行の禁止や8月に開始されたALPS処理水の海洋放出などが影響し、令和元年（2019年）度同期（90,852人泊）との比較では14.8%となっています。

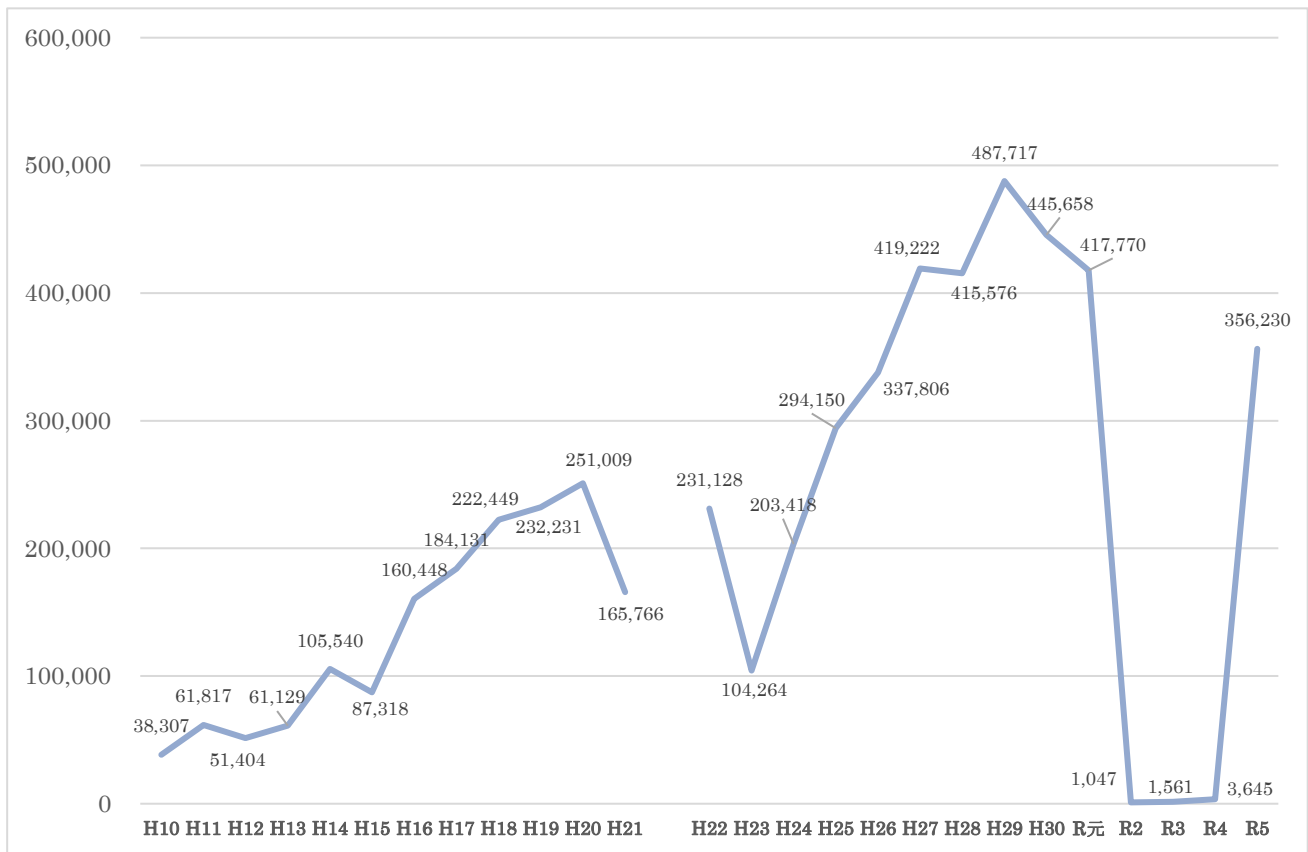
なお、参考として、平成10年（1998年）度からの訪日外国人宿泊者数（延べ数）の推移【参考資料1】と訪日外国人宿泊者数（延べ数）の多かった主な国・地域の宿泊者数（延べ数）の推移【参考資料2】、令和4年（2022年）4月から令和5年（2023年）9月までの胆振管内宿泊者数（延べ数）月別の推移（主な国・地域別）【参考資料3】、を掲載しています。

【資料1】令和5年（2023年）度上期胆振管内訪日外国人宿泊者数（延べ数）内訳 （単位：人泊）

順位	国・地域	令和5年 （2023年）度上期 宿泊者数（延べ数）		前年度 同期比	前年度同期 からの 増減数	令和元年 （2019年）度 同期宿泊者数 （延べ数）	令和元年 （2019年）度 同期比
			構成比				
1	台湾	119,546	33.6%	89,213.4%	119,412	118,087	101.2%
2	韓国	107,969	30.3%	5,715.7%	106,080	84,879	127.2%
3	香港	30,510	8.6%	160,578.9%	30,491	32,182	94.8%
4	シンガポール	17,053	4.8%	16,087.7%	16,947	14,951	114.1%
5	中国	13,482	3.8%	6,878.6%	13,286	90,852	14.8%
6	アメリカ	7,765	2.2%	2,813.4%	7,489	6,821	113.8%
7	マレーシア	5,000	1.4%	4,310.3%	4,884	10,875	46.0%
	その他	54,905	15.4%	6,040.2%	53,996	59,123	92.9%
	合計	356,230	100.0%	9,773.1%	352,585	417,770	85.3%

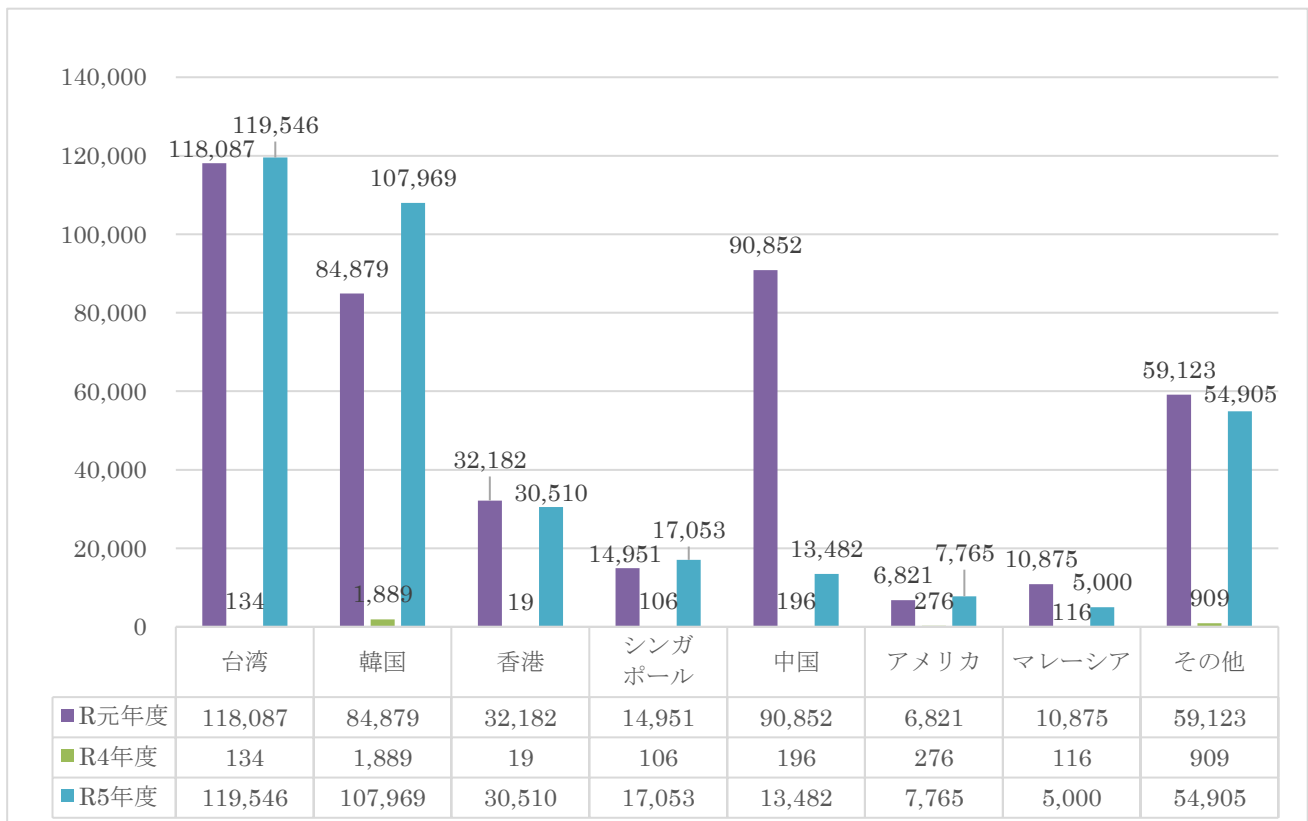
【参考資料1】胆振管内訪日外国人宿泊者数（延べ数）の推移（H10年度～・上期のみ）

（単位：人泊）



※平成22年（2010年）度より観光庁が実施する「共通基準による観光入込客統計」により調査を実施のため、平成21年（2009年）度以前との単純比較はできません。

【参考資料2】胆振管内訪日外国人宿泊者数（延べ数）の推移（主な国・地域別）（単位：人泊）



※R4年度については、数が少ないため、グラフでの確認が難しくなっております。

【参考資料3】令和4年（2022年）度から令和5年（2023年）度上期胆振管内訪日外国人
 宿泊者数（延べ数）月別の推移（主な国・地域別）

（単位：人泊）

